

新型コロナウイルスに関する感染症法上の類型見直しをめぐる、「取扱注意」と書かれた「政府内部文書」が手元にある。そこには、見直し表明の時期について、(2023年A月)とあり、そこから2〜3カ月程度経った(C月)に実際に類型変更を行う、とのスケジュー

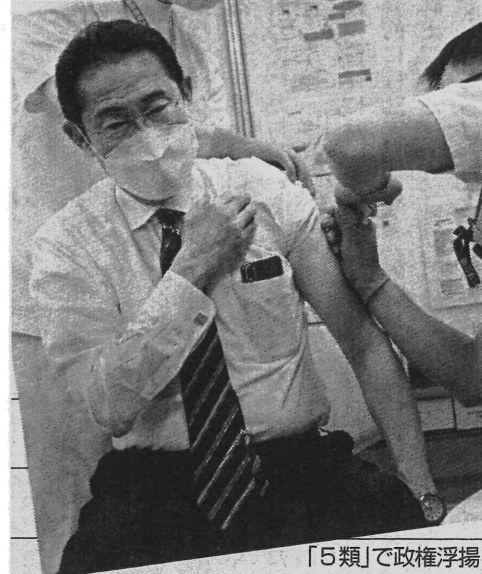
ールが記されている。「類型見直しを表明すれば国民から大きな注目を集めることは間違いありません。見直し表明時期を敢えて(A月)とフレキシブルに変更しようような記載にしている背景には、それを不発続きの政権を浮揚させる「切り札」として最も有効



コロナの診察は「発熱外来」から「一般外来」へ

「5類」でも「コロナワクチン推進」

「停止」という思考停止 特集



「5類」で政権浮揚を図る岸田総理

【取扱注意】の政府内部文書入手!
〈WHOの接種方針が…〉

に滲む「迷い」と「ためらい」

- ▶ 専門家が警鐘! 接種後「解熱剤服用でも40度超え」は要注意
- ▶ 第一線の心臓血管外科医が論文で訴えた「臨床現場の異変」とは!?
- ▶ ワクチンで「自然免疫抑制」デメリットはいつまで続くのか

「5類」でも「コロナワクチン推進」という総理の意思が透けて見えます(「政府関係者」)

「本来、政治家が判断すべきなのにその責任を専門家に委譲しているわけです。専門家の側も、政治が決めた方向と違う判断をしても却下されるので、正当化するための証拠を提供するだけになります。両者が責任を押し付け合う形になっており、問題だと思えます」

「5類移行後はコロナの患者さんを発熱外来ではなく一般外来で診察することに

「5類移行後はコロナの患者さんを発熱外来ではなく一般外来で診察することに

必要。オミクロン株ワクチンの効果の知見を集積中であること。WHOや海外当局の接種方針(特に接種間隔)が示されている

ナンセンス

「5類」に引き下げた後もワクチン接種を変わらず推進していくのはナンセンス。そんなことよりも、ワクチンによって多くの死亡や重大な健康被害が起きている事実を真摯に認め、直ちに、ワクチンを打って亡くなられた方々、健康被害を受けた方々全員を救済しなければなりません」

「5類」に引き下げた後もワクチン接種を変わらず推進していくのはナンセンス。そんなことよりも、ワクチンによって多くの死亡や重大な健康被害が起きている事実を真摯に認め、直ちに、ワクチンを打って亡くなられた方々、健康被害を受けた方々全員を救済しなければなりません」

食べるから」と。その後、自宅まで帰って来る時、あと30分くらいで家に着くというところで、なんだか腕が痺れる」と同乗していた彼氏に言っていたらしいです」

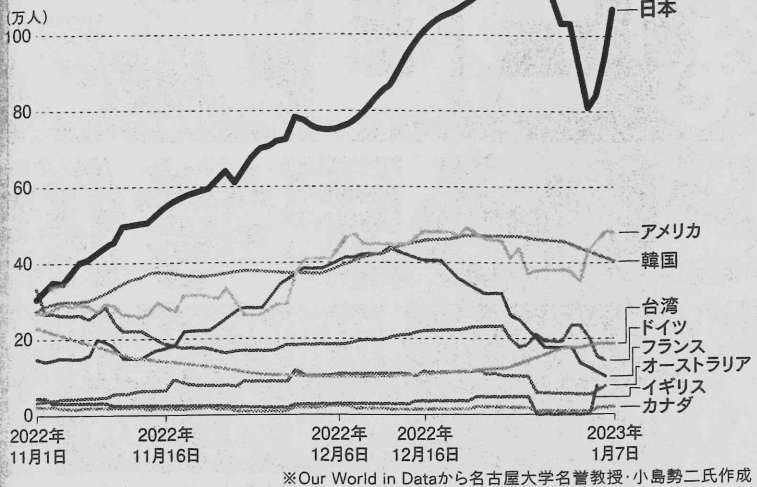
「冷えピタ」を貼ってあげて、寝るために部屋に行く娘を普通に見送りました。寝れば大丈夫だろうと思っ

私が慌てて娘のところに行ったら、すでにグッタリとしていて、口から、血の混じった泡を吹いていたので

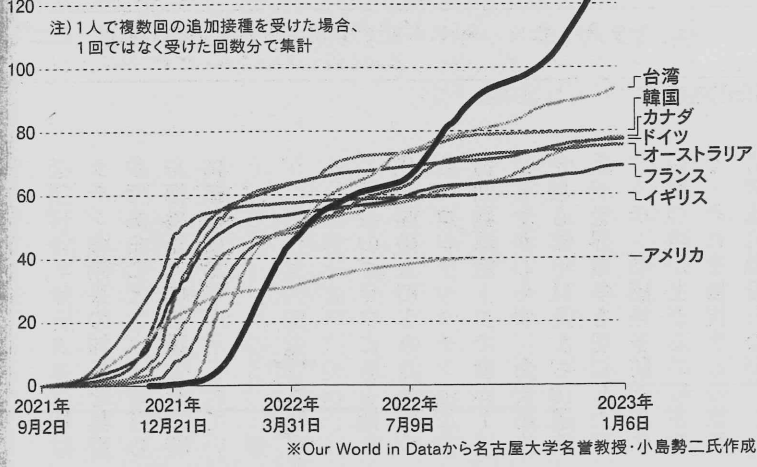
分もしないうちに母親は医師に呼ばれた。告げられたのは、受け入れ難い現実だった。

母親が言葉を絞り出す。「それで、脳室内出血が起こっていたことが分かりました。葬儀屋さんに着いて

新型コロナの新規感染者数



人口100人あたりのコロナワクチン追加接種回数



「毎晩のように娘が夢に」

山下さんにワクチン接種を勧めたことを、今も母親は悔いている。「娘は注射が嫌いで、ワクチン接種も嫌だと言っていたのですが、当時求職中だったので……」

テレビで集団接種のことをやっていた時に、それに申し込んだら……。テレビであんなに安全だから打て打てと言っていたのにこんなことになるなんて、夢にも思いませんでした」

娘は今日、車のタイヤ交換に行っている、とか理由をつけてごまかしていました。でも、娘の四十九日の法要の頃に面会に行くと、夫が「誰か亡くなったか？」と聞くのです。「なんで？」と聞いたら、毎晩のように娘が夢に出てくると言うのです。それで私は隠せなくな

く広がりがつつある。広島大学の長尾正崇教授（法医学）らのチームは、コロナワクチンを2回接種後、原因不明で死亡した4人についての検査結果を「Frontiers in Immunology」に報告した。その結果、「いずれも死亡時の推定体温が高いという特徴があり、死因を調べるため、血液からリポ核酸（RNA）の一部を解析したところ、失血死などで死亡したケースと比べると、炎症に関わる遺伝子の転写が亢進」

追加接種は中止すべき

また、静岡県にある岡村記念病院の心臓血管外科で働く山本賢二医師は「Virology Journal」に寄せた論文で、臨床現場の「異変」についてこう記している。「例えば、開心術後に炎症による感染症が疑われた症例が数例あり、複数の抗菌薬を数週間投与してもコン

トロールできなかつた。患者には免疫不全の徴候が見られ、少数の死亡例もあつた。（中略）当施設では、ワクチン接種開始以降に4例のHIT（ヘパリン起因性血小板減少症）抗体陽性例が確認されているが、過去にこの頻度でHIT抗体陽性例がみられた例はまれで

に治療にあたるべきだと提言しています。安定していた病気が急に悪化した場合や健康な人が急に病気になる場合、すべからくワクチン接種の影響を考慮すべき時代です」